

拝啓 今年も早や5月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、今はヤマボウシや水路に菖蒲がきれいに咲いています。

今回は佐生健光さんの『キリスト教と称名』の第15回、最終回です。小西芳之助先生は、横川法語を解説されたとき、これは日本人は読めばわかるとお話しになりましたが、佐生さんは、それらを現代語に翻訳して下さいました。「キリスト教式横川法語・私案」(5ページ)、「キリスト教式一枚起請文・私案」(7ページ)「キリスト教式歎異抄より・私案」(9ページ)は、熟読したいものです。

佐生さんの『キリスト教と称名』は、恵心流キリスト教の解説書として重要な図書となると思いますが、佐生さんは、15頁の「おわりに」で、「以上、キリスト教の「称名」について述べてきた。これは、我が師・小西芳之助先生が伝道のご生涯の後半で特に力説された講説を、旧新約聖書の聖句と、わが国仏教浄土門の祖師方のお言葉によって確かめる方法をとった。結果、どこか先生の意に反する部分があったか、或いは、先生の信仰を私流に解釈してしまった部分があったか、ひそかに恐れるものである。しかし冒頭に述べたように、このことはいつか、誰かがもっと完全な形でしてほしいことである。拙文が、そのささやかなつなぎの役目を果たすことができれば、これほどうれしいことはない。」と述べておられますが、後に続いて研究する人が出ることを期待しておられます。

佐生さんの『キリスト教と称名』からの引用は今回で終わりと致します。次号からは、小西先生の『コリント前書講解説教』より引用したいと考えています。

称名のありがたさは、実行してみて初めて分かる教えです。行住坐臥、時節の久近を問わず、どうぞ皆さん実行しましょう。

エンカウンターの始まりは、約20年前、佐藤れんさんから献金を頂きパソコンを買って、エルマー先生が日本を去られるとき残された小冊子(三本木健治さん編集)のいくつかの言葉を写して数人の方に送ったのが始まりでした。記念に今回、そのエルマー先生の小冊子を付録としてお付けします。どうぞご覧ください。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

**松下幸之助先生『道を開く』「志を立てよう」**

「志を立てよう。本気になって、真剣に志をたてよう。生命をかけるほどの思いで志を立てよう。志を立てれば、事はもはや半ばは達せられたとってよい。

志を立てるに老いも若きもない。そして志あるところ、老いも若きも道は必ず開けるのである。……過ぎ去ったことはもはや言うまい。かえらぬ月日にグチはもらすまい。そして、今まで他に頼り、他をアテにする心があったとしたならば、いさぎよくこれを払拭しよう。大事なことは、みずからの志である。みずからの態度である。千万人といえども我ゆかんの烈々たる勇氣である。実行力である。」

**新渡戸稲造先生『一日一言』「4月24日」**

「天の使いは人目の見えぬ所に潜みて助け、人耳に聞こえぬ声して導くものか。始終我が

傍にいるらしい。彼らの守護がなかったなら、今までに幾度転び、幾度倒れ、火災、水難数知れぬ禍はこの身を亡したであろう。我に対して好意を有し、我を守り、我が安全を祈る者は、我こそその在処も姓名も知らざれ、必ず、広き世界にあるなり。」

**内村鑑三先生『一日一生』「5月11日」**

「神の造られた宇宙であります。天然であります。これが、私ども無教会信者のこの世における教会であります。その天井は蒼穹（あおぞら）であります。その板に星がちりばめてあります。その床は青い野であります。その畳はいろいろの花であります。その楽器は松のこずえであります。その楽人は森の小鳥であります。その高壇は山の高根でありまして、その説教師は神様ご自身であります。これが私ども無教会信者の教会であります。」

**パークレー先生『一日一章』「4月30日」**

「半世紀にわたる生涯を送ってきて、貸方に属するものと言えば、……前よりも思いやりの気持ちが増してきた。……

前よりも寛容さが増してきた。…神に至る道はわたしが見出したもののほかにもたくさんあるのだということを知る気持ちが前よりもずっと強くなっているのである。

年月の経過とともにものごとの正しさについての確信がうすれることはない、と私は思う。だが、自分だけが正しくてほかの者はみんな間違っているという確信は、年と共に薄れてくる。

自分のやる仕事をよく選ぶようになった。むかしのようにたっぷり時間はない、だからほんとうにやらなければならないことだけを集中的にやらねばならぬ、ということをつまびらかに潜在意識的に感じ取るのだろう。年とともに均衡感覚が増してきて、なにが重要か、なにが重要でないかがよく見えるようになってくる。」

**カウマン先生『山頂を目指して』「5月23日」**

「永遠の問題は、断片的な時間にかかっている。「夏に集める者は賢明である」ということわざがある。青年はたとえて言えば夏である。それは知識を集める時である。習慣を形成し、人格を作り上げる時である。機会を活用する青年、勤勉に「冬のために夏に集める青年」は、のちに責任ある地位についた時、それに対する準備ができており、立派に成し遂げることができるのである。」

エンカウンターは、現在、郵便で約20名の方にお送りしています。数号前から、メール添付の形で、約10名の方にもお送りするように致しました。自分には送る必要がないという方は、はがきまたはメールでその旨、お知らせくだされば、お送りするのを中止させていただきます。

ワクチン注射が急速に普及しています。どうぞ皆様もワクチン注射をされ、コロナにかからないように注意されて、お元気にお過ごしください。マスク、手洗い、うがいなどは引き続き励行されまして、お体には十分ご注意ください、お祈り申し上げます。

5月25日

山口周三

エンカウターの読者各位